鉄心斎文庫所蔵

伊勢物語図録

【第十二集】古写本の世界…

中世から江戸初期にかけて

鉄心斎文庫所蔵

伊勢物語図録

【第十二集】古写本の世界：中世から江戸初期にかけて

江苏工业学院图书馆
藏书章

鉄心斎文庫　伊勢物語文華館

目次

ごあいさつ……芦澤美佐子……4
古写本と伝承筆者……山本登朗……6

一　伊勢物語彩色絵入本……8
二　伊勢物語彩色絵入本……10
三　伊勢物語彩色絵入本……12
四　伊勢物語彩色絵入本……14
五　伝藤原為家筆本……16
六　伝頓阿筆本……18
七　伝二条為右筆本……20
八　伝足利義尚筆本……22
九　三条西実隆奥書本転写天福本……24
十　伝平田墨梅筆本……26
十一　明応三年筆本転写本……28
十二　明応七年肖柏筆本……30
十三　伝月招筆本……32
十四　永正十二年老槐散木奥書本転写本……34
十五　伝足利義輝筆本……36
十六　伝山崎宗鑑筆本……38
十七　伝山崎宗鑑筆本……40
十八　伝山崎宗鑑筆本……42

十九　伝宗牧筆天福本……44
二十　永禄十二年奥書残花書屋旧蔵本……46
二十一　勧修寺晴秀筆照高院道澄奥書本……48
二十二　伝本阿弥光悦筆本……50
二十三　天正十二年尊朝法親王筆本……52
二十四　慶長十五年一華堂乗阿筆本……54
二十五　慶長十六年奥書本……56
二十六　筆者不明天福本……58
二十七　三種奥書小型本……60
二十八　無奥書横本……62
二十九　根源本第二系統奥書本……64
三十　関戸家旧蔵無奥書本……66
三十一　無奥書天福本……68
三十二　三種奥書本……70
三十三　二種奥書本……72
三十四　二種奥書為相奥書本……74
三十五　無奥書袋綴二冊本……76
三十六　武田本奥書本……78
三十七　無奥書本……80
三十八　岡田文庫旧蔵無奥書本……82
三十九　無奥書本……84
四十　掛軸　魚渕筆……86

ごあいさつ

芦澤美佐子

◉大変よい季節になりました。十二回展の御案内ですが、回を重ねてまいりまして、何を特徴とした展示にするか迷いました。

◉室町時代の末応仁の乱にはじまった、戦国時代は、約百年にわたり京の都は焼野原になってしまいました。それを織田信長、豊臣秀吉によって一応統一されました。その間、公家、僧侶などは地方に逃れてゆき中央文化は、地方に普及してゆくことになります。信長の築いた安土城、秀吉の伏見城(のちに桃山といわれる)ここ安土桃山という時代が生れ華やかな文化が開けてゆきました。この時代のものと考えまして、室町時代の末から江戸時代の初めにかけまして書寫されたと思う本をならべてみました。

◉和歌、俳諧で名前の知られた人、能筆といわれた人、その周辺の人達の寫本です。御本人の署名がなくても、古筆家の鑑定のあるもの、例えば山崎宗鑑などは、確かにこの時代に生きた人です。展示いたしました三点とも署名はありませんが、前回展示したものとよく似ております。また所々切りとられて、バラ〳〵になってしまっているものもあり、おそらく茶掛けにでもなってしまったものかと想像しております。平田墨梅なども短冊がのこっております。短冊は約束ごとがあり、自分の歌を自分で書きますので、これとくらべて見ましても間違いない墨梅の筆と思われま

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

すが、署名がありませんので伝承です。全く誰ともわからないもの、又似ても似つかない筆でも、あえて鑑定してあるものもありますが、料紙などから見ましても今回の展示は室町末期から江戸初期の寫本と思っております。何かお気づきのことがございましたらお教えいただければ幸でございます。

古写本と伝承筆者

山本登朗

◉伊勢物語など古典籍の古写本には、筆者の署名も記されていないのに特定の人物がその本の書写者とされているものが多い。多くの場合それらには、筆跡の鑑定を家業とするいわゆる「古筆家」の「極め札」（鑑定書）が添付されていて、そこで筆者と鑑定されている人物が、ほとんどそのままその本の筆者とされている。そのように比定された筆者や、箱書などにその名が記されて伝えられている筆者を一般に伝承筆者と呼び、その書物をたとえば「伝為家筆伊勢物語」「伝為右筆伊勢物語」などとも呼んでいる。

◉伝承筆者は、『徒然草』に記されて有名な「小野道風の書ける和漢朗詠集」の例からもわかるように古くから存在したと思われるが、筆跡の鑑定を専門とする古筆家は、桃山時代に豊臣秀次から「古筆」の称と「琴山」の印の使用を許された了佐にはじまり、その子孫に代々受け継がれていった。彼ら古筆家の筆者比定には、現代から見ればかならずしも厳密でないところがあり、伝承筆者が本当に真の筆者であるのかどうか、疑問に思われる場合も少なくない。しかし、筆者がその人とは思えない場合でも、その本が書かれた時代はその人物の時代とほぼ一致することが多く、伝承筆者は時代判定の一応のめやすとしてそれなりに有効である。たとえば「伝為家筆伊勢物語」は鎌倉時代の写本、「伝為右筆伊勢物語」は南北朝期から室町時代初期の写本であると古筆家は判断した、ということになる。

◉しかし、それだけではない。古筆家が比定している人物は、文化史や書道史、ないしはその他のさまざまな分野に名を残している人物であることが多い。筆者に擬せられたその歴史上の人物は、筆跡

という具体的な形を取って見るものの前に現前する。そこには、時を隔てながら筆跡によって古人と気持ちを通わせる、一種独特の歴史意識が存在する。ことの当否を厳密に考えることも一方ではもちろん必要だが、そのような筆者の比定そのものが、当時のひとつの社会現象、つまりはひとつの文化であったことを忘れてはならないだろう。いうなればそれは、濃密な文化伝統の意識に支えられた、一種の、すぐれた古写本享受法だったとも考えられる。人々は、そのような形（スタイル）をとることによって、古典籍を、有名無名の先人たちがいまに残した歴史的な文化遺産として、暖かい心で珍重することができたのではなかったか。

◉ちなみに、「伝為家筆本」の筆者に擬せられている藤原為家はいうまでもなく定家の子で、俊成・定家・為家と続いた和歌の家である御子左家は、その次の代から二条・京極・冷泉の三家に分裂する。そのうち、為家の長男為氏にはじまる二条家は、「伝為右筆本」の作者に擬せられている二条為右の死によってその血統が断絶してしまうが、記録によればその死は、将軍足利義満による誅殺であったという（井上宗雄氏『中世歌壇史の研究・室町後期』）。為右の父の為重も何らかの事情で夜討ちを受けて殺害されており、さらに祖父の為冬（為実の曽孫）は、後醍醐天皇方の軍の一員として鎌倉にいた足利尊氏を攻めて戦場に死んでいる。動乱の時代に和歌の家も容赦なく巻き込まれていったのだが、そんな為右の名もまた、ことの当否はなお検討を要するものの、伊勢物語などの古写本の伝承筆者のひとりとしていまに伝えられているのである。

（光華女子大学教授）

一……伊勢物語彩色絵入本

列帖装三帖。縦二三・五糎、横一七・〇糎。紺地に松葉文様の金襴表紙の中央に金地の題箋を貼り「伊勢物語 上(中)(下)」と外題を記す。見返しは金箔布目。料紙は鳥の子紙に金泥で下絵を描く。

各帖それぞれ、墨付き三五、三五、四〇丁、遊紙は各二丁。絵は二十一、一四、一四枚ずつを有する。図柄は嵯峨本のものに近い。奥書はないが、「後水尾帝の書風、絵は土佐画密画」と記す平木清光の書状が添付されている。

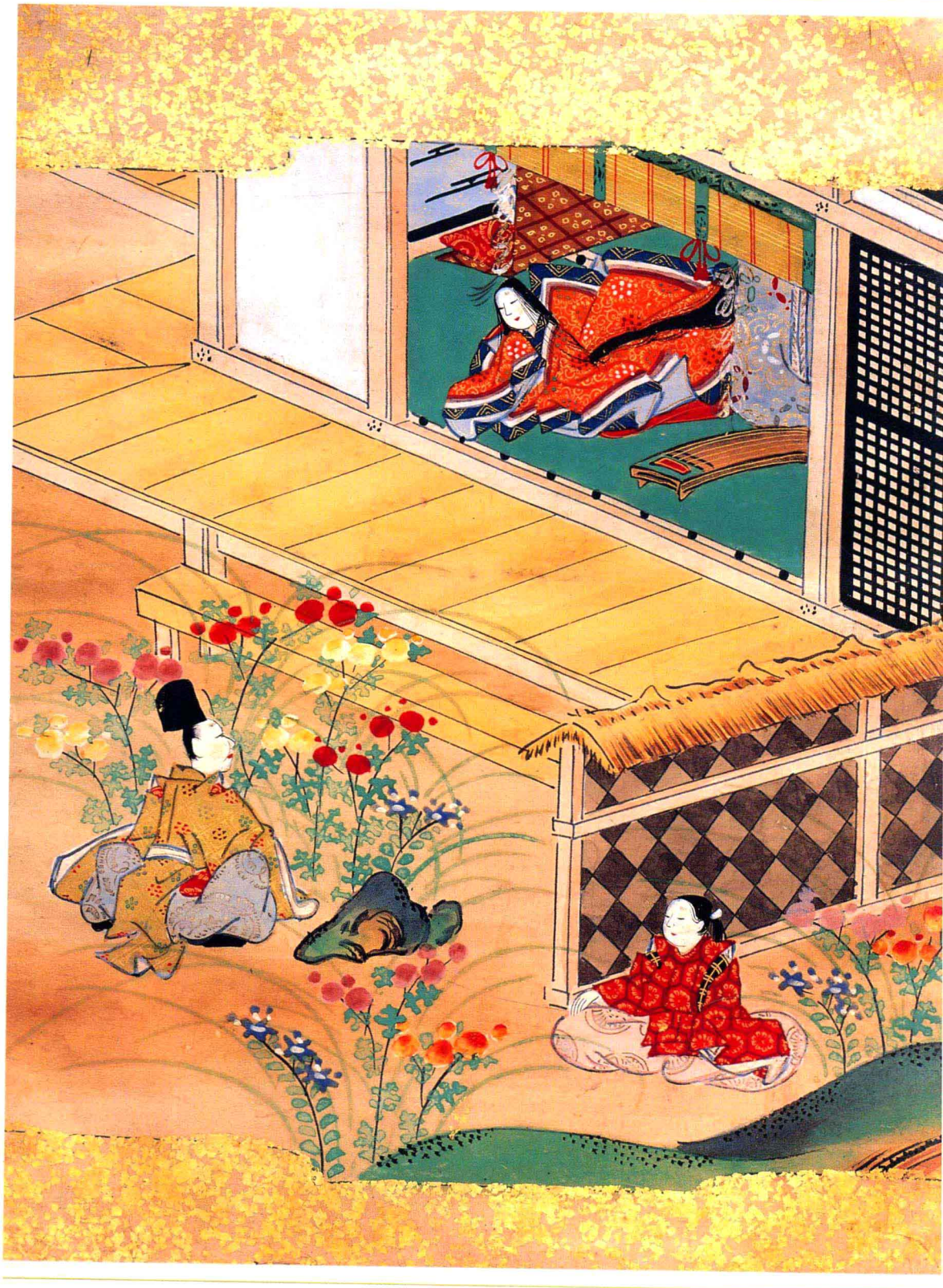
二……伊勢物語彩色絵入本

列帖装二帖。縦二三・七糎、横一七・二糎。紺地花唐草文金襴表紙の中央に金銀雲紙の題箋を貼り「伊勢物語 上(下)」と外題を記す。見返しは銀箔布目に金切箔散らし。料紙は鳥の子紙。各帖それぞれ、墨付き三〇、四〇丁、遊紙は五、二丁。絵は上下それぞれ五枚ずつを有する。図柄は嵯峨本のものに近い。奥書はない。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

三……伊勢物語彩色絵入本

列帖装三帖。縦二二・八糎、横一七・〇糎。外箱桐、中塗箱の二重箱入。表紙は紺地に籬花唐草文金襴。中央に金泥雲紙の題箋を貼り「伊勢物語 上(中)(下)」と外題を記す。見返しは金箔布目。料紙は鳥の子紙。各帖それぞれ、墨付き三一、四六、三三丁、遊紙は一、〇、四丁。絵は一九、一七、一三枚ずつを有する。奥書はない。絵の図柄は嵯峨本に近いが、水面の描き方など、随所に琳派風の装飾性がうかがわれる。



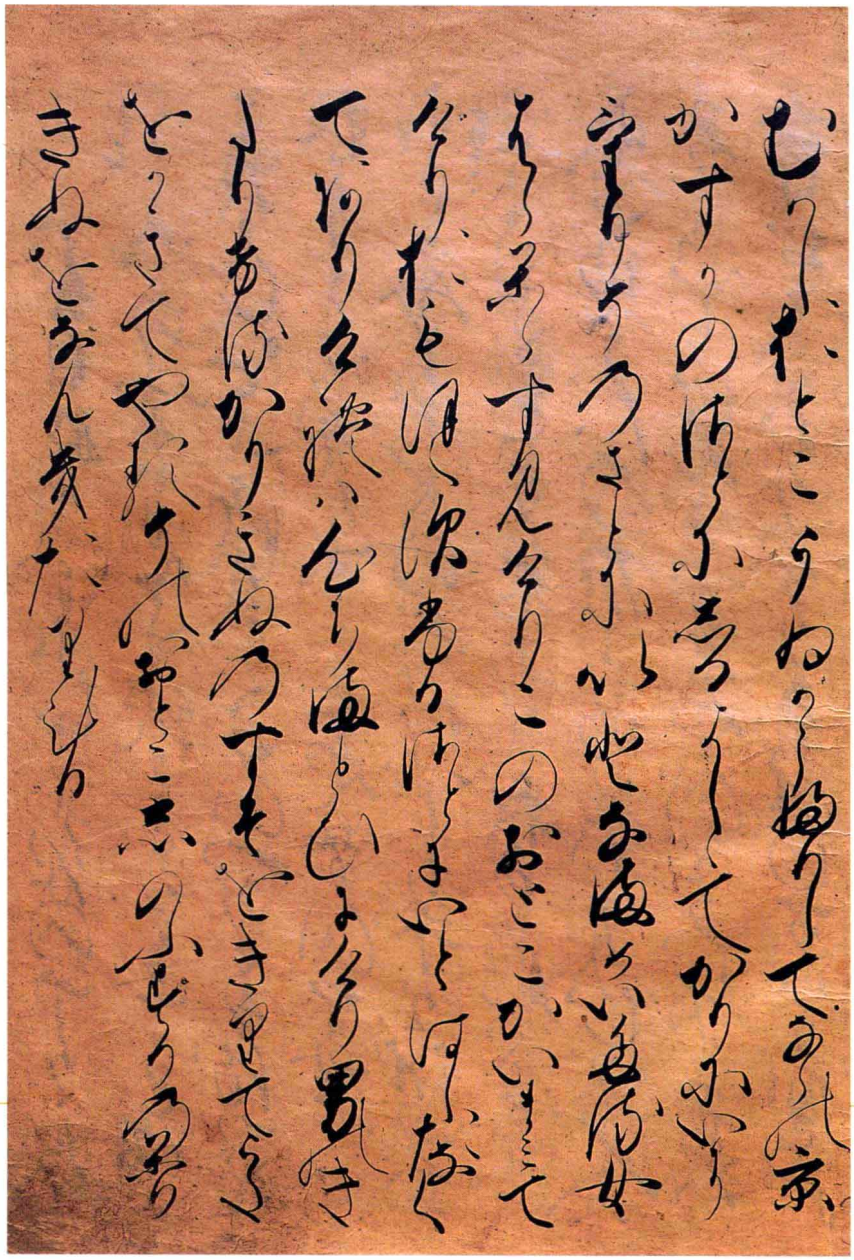
四……伊勢物語彩色絵入本

列帖装一帖。縦二四・四糎、横一八・二糎。表紙は紺紙金泥下絵（桜樹八橋）等。中央に金泥で下絵を描いた題箋を貼り「伊勢物語」と外題を記す。見返しは金箔万字くずし文様。料紙は鳥の子紙で、墨付き一二〇丁、遊紙二丁。四九枚の絵を有する。奥書はない。もと上下二帖を合綴。

五……伝藤原為家筆本

列帖装一帖。縦二四・三糎、横一七・五糎。茶色地唐草文様布表紙（後補）。題箋・外題はない。料紙は鳥の子紙。墨付き八〇丁、遊紙四丁。本文は武田本に近いが、奥書等はなく、一部に「定筆」との校合注記が記されている。筆者を「中院大納言為家卿」とする極札が添付されている。

藤原為家は、定家の子。和歌の家を継いで歌壇に重きをなし、『続古今集』『続後撰集』の選者となったが、晩年は阿仏尼を溺愛し、御子左家が二条・京極・冷泉の三家に分裂する原因となった。正二位権大納言民部卿に至り、仁治二年（一二四一）に七十八歳で没した。



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com